

# 連絡船

北海道天売高等学校  
平成28年6月1日発行



学校通信 第 2 号

## バドミントン教室開催

～定通体連出場に向けて～



天売体育協会主催のバドミントン教室が4月16日(土)・17日(日)の2日間にわたり開催され、今年もMMOA(モア)

スポーツの吉田仁さんを講師として迎えました。

高校からはバドミントン部5名が参加し、前半はフットワークの練習やシャトルを遠くまで飛ばす練習を行い、後半にはバックハンドの打ち方の練習など、基礎から応用まで様々な技術を教わりました。

参加者は小学生から高校生まで幅広い年齢層で、皆で和気藹々とバドミントンを楽しむことができました。

バドミントン部の5名には、吉田仁さんに教わったことを活かして大会で活躍してもらいたいです。

## 天売クリーン作戦実施 小中学生と一緒に



4月16日(土)、「天売クリーン作戦」を実施しました。「天売クリーン作戦」とは、これから始まる天売島の本格的な観光シーズンを前に、天売小中学校と天売高校が合同で島の幹線道路の清掃をする恒例の行事です。これから訪れる観光客を自分たちの手で島をきれいにしておもてなししようと、全員で協力してゴミを拾いました。活動を終えて、観光案内の仕事をしている3年生の泉谷一貴くんは、「ペットボトルとタバコの吸い殻が特に多かった。観光シーズン前にたくさん拾うことができよかった。これから目にするゴミは拾うようにしようと思う。」と感想を述べました。

## 役員認証式・生徒総会

新しいメンバーでのスタート!

4月27日(水)に役員認証式と第1回生徒総会を行いました。役員認証式では、1年生の菅原夏夜さんと3年生の泉谷一貴くんがHR委員長に認証されました。より良いクラス作りのために尽力してくれることと思います。

第1回生徒総会では、昨年度の行事反省や今年度の行事計画について話し合いが行われました。3年生がリーダーシップをとって進行する姿は、1年生への良い見本となったと思います。



## 春季避難訓練

～常に迅速な行動がとれるように～

5月12日(木)、春季避難訓練を行いました。家庭科室での火災を想定し、体育館から外に避難する予定でしたが、前日の雨のため道路状況が悪く避難場所を体育館に変更し、実施しました。

消防署の太田分遣所長さんから避難方法や救助方法についてアドバイスをいただいたあと、3年生の野上千利くんは、「災害はいつ起こるかわからないので、それに備えるためにも避難訓練は大切だと思います。」とお礼を述べました。

## 天売学「天売の自然」

### 野鳥観察

天売学「自然Ⅰ」・「自然Ⅱ」を、それぞれ5月10日、14日に行いました。今回の天売学では、羽幌町議会議員で、写真家としても活動している寺沢孝毅さんを講師に招き、授業を実施しました。

「自然Ⅰ」では、鳥の特徴や生態、天売で観察される野鳥の種類などについて学び、生徒の一人は「天売に約300種類の野鳥が飛来すると聞いて驚いた。」と感想を綴っていました。

「自然Ⅱ」では、フットパスを散策しながら、寺沢さんの解説のもとバードウォッチングを行いました。天売島の代表的な野鳥であるノゴマ（喉のところがオレンジ色がトレードマークの鳥）をはじめ、ヒガラやオオルリなど、様々な野鳥を観察することができました。身近にいる野鳥がとても貴重であることを再認識し、非常に有意義な天売学となりました。



## 今年度初の水産実習

### 赤ガレイ燻製



今年度最初の水産実習である赤ガレイの燻製づくりを5月11日（水）から2日間にわたって行いました。

実習に先立ち、5月10日（火）に食品衛生についての講義を行いました。水産実習をするにあたっての注意事項を全員で確認し、これから実施する数々の実習への気持ちを引き締めました。

1日目はカレイの下処理作業と味付け作業で、魚の洗浄・ウロコとり・内蔵の除去等の下処理したカレイを、計りとった塩や調味料とともに丸1日樽漬けして終了です。

続く2日目はテング掛けをしました。テングと呼ばれる棒にカレイを吊るし、燻製室に入れる作業です。その後は1～2週間、煙と風をかけて乾燥させ最後に焼酎で表面を磨くと完成です。

3年生は手際良く作業を進める一方、1年生も今回が初めてとなる実習に熱心に取り組んでいました。

今年は262枚と数が多く下処理は大変で、予定よりもカレイをさばくのに時間がかかりましたが、ほとんどがオスで小ぶりながらとても美味しく仕上がっています。

この赤ガレイの燻製は、9月の天高祭などでお披露目できる予定です。お楽しみに。

## 図書係から

### ～お勧めの本～ 『あやしい探検隊 北へ』（天売高校蔵書）

著者は椎名誠という作家です。私がこの本に興味を持ったのは、人に勧められたのと、タイトルに惹かれたからです。著者を隊長とする「東日本何でもケトばす会（通称東ケト会）」が旅をする、というただそれだけの内容です。今から20年以上前に出版された本ですが、今でも共感できることがいくつかありました。また、難しいことを考えず読むことができるので、日々の疲れを忘れたい人にはお勧めです。この本は『わしら怪しい探検隊』という本の続編なので、興味のある方は前作から読むことをお勧めしますが、この本からでも十分楽しめると思います。興味のある方は、ぜひ天売高校まで。（分類番号915.6シ）

